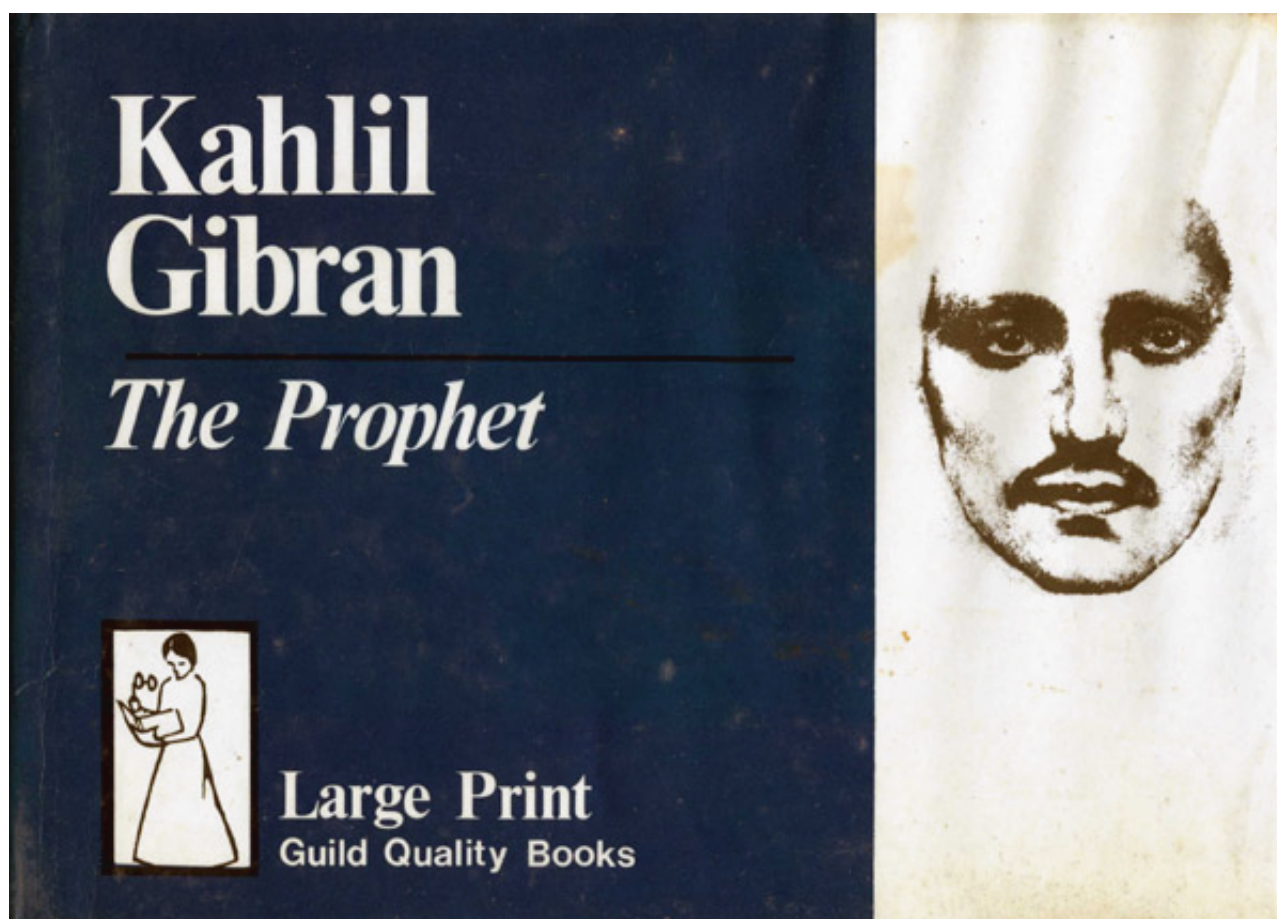


わたしは解決できない問題にぶつかると、いつも本を読み始めます。解決の糸口が見つかることばに出会うと本を閉じます。

私は、今11歳の娘がいますが 子育てに悪戦苦闘しているときに（いまもそうですが）この本 The Prophet に、シドニーの図書館で8年前に出会い 子どもという章を読み、ずいぶん気が楽になりました。

子どもが よく自分のいうことをきかないからと言って、自分の子どもを虐待するというニュースをよく聞きますが、子どもって 親のロボットではないんです。大人と同じ、一人の性格を持った人間なんです。



子どもたちのこと

あなたの子どもたちはあなたの子どもたちではない。
彼らは自ら生きることが求めている娘や息子達なのだ
彼らはあなたを通じてこの世に来たが、
あなたから生まれたわけではない。
あなたは彼らに愛を与えてもよいが、
考えを与えることはできない。
彼らは自分自身の考えを持っているのだから。
あなたは子どもたちを家に住まわせることは出来ても
かれらの魂まで家に住まわせることはできない。
なぜならば、彼らの魂はあなたが夢の中でさえ訪れることの
できない明日という家に住んでいるのだから。
あなたが彼らのようになろうと努力するのはいい。
だが子どもたちをあなたのようにしようとしてはならない。
命は後ろに進むことはなく、
明日にとどまることもないからだ。
あなたは弓であり、あなたの子どもたちはその弓から射られる
生きた矢である。射手(神)は無限の道に的を定めて
矢が速く遠くまで飛ぶようにできる限りの力であなたを曲げる。
彼(神)の手によって曲げられることを喜びなさい。なぜなら
射手(神)は 飛んでいく矢を愛しているように、
しっかりした、じっとしている弓をも愛しているのだから。

Kahlil Gibran 「預言者」より